



# 館林市自立支援型個別ケア会議 事例報告書

館林市  
高齢者支援課

## 館林市地域包括ケア会議・自立支援型個別ケア会議について

地域包括ケア会議は、高齢者が可能な限り住み慣れた地域でその有する能力に応じた日常生活を営むことができるよう、保健、医療、福祉、住まい及び生活のための支援を包括的に支援することを目的に、主として、5つの機能①個別課題の解決、②ネットワーク構築機能、③地域課題発見機能、④地域づくり・資源開発機能、⑤政策形成機能を有して開催する会議です。

館林市地域包括ケア会議は、市全体の課題について検討する「地域ケア推進会議」、個別ケースの検討を行う「地域ケア個別ケア会議」に大別されます。さらに、地域ケア個別ケア会議は、「個別ケース検討会議」「自立支援型個別ケア会議」「徘徊高齢者支援会議」から構成され、支援を必要とする市民への包括的、継続的な支援を検討する場、介護支援専門員による高齢者の自立支援に資するケアマネジメント実践力の向上を図る場として活用されています。

そのなかで、自立支援型個別ケア会議では、平成31年4月より介護保険サービスを利用しているかたが、いつまでも元気に住み慣れた地域で生活できるように介護支援専門員（ケアマネジャー）とともに薬剤師、保健師、理学療法士、管理栄養士、歯科衛生士などの専門職が本人のできることや支援の方法などについて検討しています。

本報告書は、本市における自立支援型個別ケア会議の運営および好事例をまとめ、高齢者の自立支援・重度化防止の取組を推進することを目的としています。

本報告書を地域包括ケアに関わる様々な取り組みに活用いただき、「だれもが、いつでも、つながりを実感できる地域共生社会」の実現に向け、本市の地域包括ケアシステムが更なる深化・充実するよう、引き続き、関係するみなさまのご理解とご協力をお願いいたします。

令和5年1月 館林市 保健福祉部 高齢者支援課

## 目 次

I. 館林市自立支援型個別ケア会議.....	1
1. 自立支援型個別ケア会議の目的.....	1
2. 自立支援型個別ケア会議の目標.....	1
3. 自立支援型個別ケア会議の参加者.....	1
4. 会議を進めるうえでの約束.....	2
5. 対象とする事例.....	2
6. 会議資料.....	2
7. 自立支援型個別ケア会議の流れ.....	9
II. 館林市自立支援型個別ケア会議の好事例.....	11

# I. 自立支援型個別ケア会議

## 1. 目的

介護保険法の理念である「できる限り在宅で自立した日常生活を継続できるように支援すること」を実現するとともに、介護支援専門員による高齢者の自立支援に資するケアマネジメント実践力の向上を図ることを目的とする。

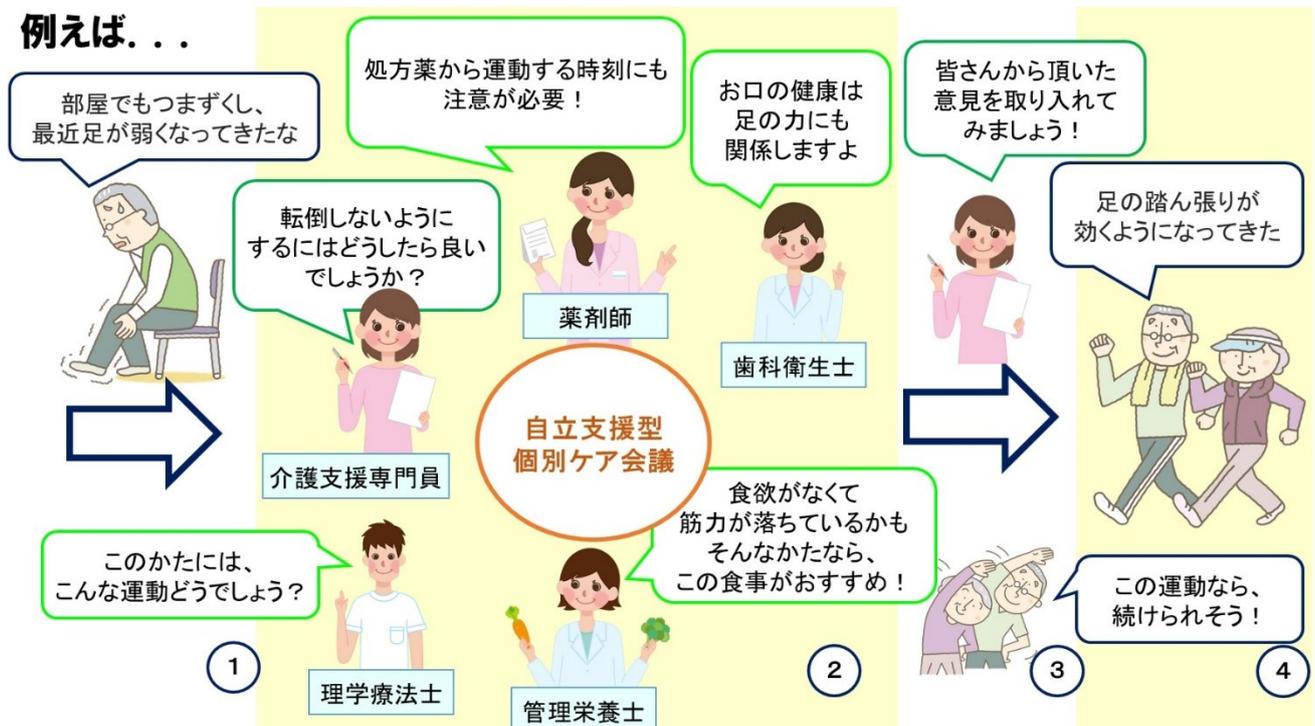
## 2. 目標

- ① 高齢者の能力を引き出し、やりたいこと、なりたい姿の実現に繋げる
- ② 介護支援専門員が課題と感じていることが解決できる
- ③ 多職種が参加することにより、様々な視点での検討、地域資源の把握に繋げる

## 3. 参加者

司会（市）、地域包括支援センター、助言者（歯科衛生士、薬剤師、管理栄養士、保健師理学療法士等）、事例提供者（居宅介護支援事業所の介護支援専門員）、サービス提供事業所等

例えば...



会議のイメージ図

#### 4. 会議を進めるうえでの約束

- ① 守秘義務を守る
- ② 尊重し合う
- ③ 提案は専門用語を使わず、参加者全員がわかる表現をする
- ④ 思い込みは捨て、あるがままを受け入れる
- ⑤ 他者の発言を遮らない
- ⑥ 意見を否定することや、批判的な言動をしない

#### 5. 対象とする事例

事業対象者又は要支援認定者で、次のいずれかに該当し、改善の可能性のあるケース

- ① 通所型サービス又は介護予防通所リハビリテーションを利用しているケース
- ② 訪問型サービスを利用しているケース
- ③ サービス利用が数年間、変化のないケース
- ④ 福祉用具貸与等を利用しているケース

#### 6. 会議資料

- (1) 利用者基本情報
- (2) 基本チェックリスト
- (3) ケアプラン・週間利用予定表
- (4) 個別援助計画書（サービス事業者が作成する計画書）
- (5) 興味関心チェックシート（資料1）
- (6) 課題整理総括表（資料2）
- (7) 食事内容・口腔・水分摂取チェックシート（資料3）
- (8) 福祉用具貸与計画（サービス事業者が作成する計画書）
- (9) お薬手帳の写し

※(5)~(9)については既存の書類の活用可

## 興味・関心チェックシート

作成日： 年 月 日

氏名： 様 性別： 生年月日： 年 月 日 年齢 歳 介護度：

生活行為	している	してみたい	興味がある	生活行為	している	してみたい	興味がある
自分でトイレへ行く				生涯学習・歴史			
一人でお風呂に入る				読書			
自分で服を着る				俳句			
自分で食べる				書道・習字			
歯磨きをする				絵を描く・絵手紙			
身だしなみを整える				パソコン・ワープロ			
好きなときに眠る				写真			
掃除・整理整頓				映画・観劇・演奏会			
料理を作る				お茶・お花			
買い物				歌を歌う・カラオケ			
家や庭の手入れ・世話				音楽を聴く・楽器演奏			
洗濯・洗濯物たたみ				将棋・囲碁・麻雀・ゲーム等			
自転車・車の運転				体操・運動			
電車・バスでの外出				散歩			
孫・子供の世話				ゴルフ・グランドゴルフ・ 水泳・テニスなどのスポーツ			
動物の世話				ダンス・踊り			
友達とおしゃべり・遊ぶ				野球・相撲等観戦			
家族・親戚との団らん				競馬・競輪・競艇・パチンコ			
デート・異性との交流				編み物			
居酒屋に行く				針仕事			
ボランティア				畑仕事			
地域活動（町内会・老人クラブ）				賞金を伴う仕事			
お参り・宗教活動				旅行・温泉			
その他（ ）				その他（ ）			
その他（ ）				その他（ ）			

課題整理総括表

作成日 2022/ 〇/〇

利用者の事例	自立した日常生活の阻害要因 (心身の状態、環境等)	了. 偏った食生活・肥満 工. 住環境 (階段、坂道)	イ. 糖尿病の理解が不十分 カ. サービス利用に対する抵抗感	ウ. 顕著な疼痛・腫脹
状況の事実 ※1	現在 ※2	要因 ※3	改善/維持の可能性 ※4	備考 (状況・支援内容等)
移動	室内移動 (自立) 見守り 全介助 屋外移動 (自立) 見守り 一部介助 全介助		改善 維持 悪化 改善 維持 悪化	※関節の痛みや腫れ、室内では手すりや歩行器を使用。屋外も歩行器使用。
食事	食事内容 (自立) 見守り 一部介助 全介助 食事摂取 (自立) 見守り 一部介助 全介助 調理 (自立) 見守り 一部介助 全介助	ア. イ. カ	改善 維持 悪化 改善 維持 悪化 改善 維持 悪化	※柔らかく、脂っこい食事が好きで毎晩500mlのビールを飲む習慣がある。体重73kg。欠損している歯が数本。歯茎より出血あり。炊事は好きで自分でやっている。 ※トイレは薬便座・手すり設置済
排泄	排尿・排便 (自立) 見守り 一部介助 全介助 排泄動作 (自立) 見守り 一部介助 全介助		改善 維持 悪化 改善 維持 悪化	※入院後体調が悪くなったため、歯の欠損の治療ができていない。
口腔	口腔衛生 (自立) 見守り 一部介助 全介助 口腔ケア (自立) 見守り 一部介助 全介助	オ	改善 維持 悪化 改善 維持 悪化	※忘れことなく歯磨きできている。
服装	服装 (自立) 見守り 一部介助 全介助 入浴 (自立) 見守り 一部介助 全介助		改善 維持 悪化 改善 維持 悪化	※浴槽の入りがしづらく、シャワーで済ませることが多い。
更衣	更衣 (自立) 見守り 一部介助 全介助		改善 維持 悪化	
掃除	掃除 (自立) 見守り 一部介助 全介助	ウ	改善 維持 悪化	※掃除は身の回りのみ粘着ローラーで行うが、掃除機や拭き掃除は膝の痛みと関節可動域制限のため行うことができない。
洗濯	洗濯 (自立) 見守り 一部介助 全介助		改善 維持 悪化	
整理・物品の管理	整理・物品の管理 (自立) 見守り 一部介助 全介助		改善 維持 悪化	
金銭管理	金銭管理 (自立) 見守り 一部介助 全介助		改善 維持 悪化	
買物	買物 (自立) 見守り 一部介助 全介助		改善 維持 悪化	※買物物は自分の目で見て購入したいので歩行器を利用してゆっくり行く。
コミュニケーション能力	コミュニケーション能力 (自立) 見守り 一部介助 全介助		改善 維持 悪化	
認知	認知 (自立) 見守り 一部介助 全介助		改善 維持 悪化	
社会との関わり	社会との関わり (自立) 見守り 一部介助 全介助	カ	改善 維持 悪化	※娘とは電話連絡は時々している。近隣住民とは関係は良好。ヘルパー支援に対して抵抗感あり。
褥瘡・皮膚の問題	褥瘡・皮膚の問題 (自立) 見守り 一部介助 全介助		改善 維持 悪化	
行動・心理症状 (BPSD)	行動・心理症状 (BPSD) (自立) 見守り 一部介助 全介助		改善 維持 悪化	
介護力 (家族関係含む)	介護力 (家族関係含む) (自立) 見守り 一部介助 全介助		改善 維持 悪化	※娘が同市内在住であるが就業のため訪問は月1回程度。 ※エレベーターのない3階。スーパーへは配達がある。
居住環境	居住環境 (自立) 見守り 一部介助 全介助	エ	改善 維持 悪化	

※1 本表は、高齢者生活支援センターに委託して作成された。委託先は、委託先が作成した内容に、必要に応じて追加して記入する。  
 ※2 介護支援センターが作成した内容に、必要に応じて追加して記入する。  
 ※3 現在、本人が「自立」している場合は「自立」を記入し、そのほかの状況は「見守り」または「一部介助」または「全介助」を記入する。  
 ※4 今回の調査対象者における状態の改善/維持/悪化の可能性について、介護支援センターの判断として記載している。

利用者及び家族の意向 生活に対する意向	見直し ※5	生活全般の解決すべき課題 (ニーズ) 【案】	※6
【本人】自宅に他人を入れたくないのでヘルパーに頼りたくない。【介護者(娘)】同居内に住んでほしい。毎日の仕事を休んでおきたい。頻りに母を助われないため、できることは自分でしてほし			
	1. 歯を治療することにより、食事形態も普通のもの、咀嚼回数が増え満足感も得ることができるようになる。 2. 食事指導により食事内容を更し、併せて内服薬の継続と、適切な運動を行うことで、体重が減少し、高血圧や糖尿病合併症予防ができる可能性がある。 3. 両膝の痛みに対して、負担を減らし、注料等を行うことで、痛みが軽減せず、現状(自立)での買物や段差の昇降)を維持し転倒を予防できる。	生活全般の解決すべき課題 (ニーズ) 【案】 1. 歯を治療して何でも食べられるようになる。 2. 食事指導により食事内容を更し、併せて内服薬の継続と、適切な運動を行うことで、体重が減少し、高血圧や糖尿病合併症予防ができる可能性がある。 3. 両膝の痛みに対して、負担を減らし、注料等を行うことで、痛みが軽減せず、現状(自立)での買物や段差の昇降)を維持し転倒を予防できる。	1
		生活全般の解決すべき課題 (ニーズ) 【案】 1. 歯を治療して何でも食べられるようになる。 2. 食事指導により食事内容を更し、併せて内服薬の継続と、適切な運動を行うことで、体重が減少し、高血圧や糖尿病合併症予防ができる可能性がある。 3. 両膝の痛みに対して、負担を減らし、注料等を行うことで、痛みが軽減せず、現状(自立)での買物や段差の昇降)を維持し転倒を予防できる。	2
		生活全般の解決すべき課題 (ニーズ) 【案】 1. 歯を治療して何でも食べられるようになる。 2. 食事指導により食事内容を更し、併せて内服薬の継続と、適切な運動を行うことで、体重が減少し、高血圧や糖尿病合併症予防ができる可能性がある。 3. 両膝の痛みに対して、負担を減らし、注料等を行うことで、痛みが軽減せず、現状(自立)での買物や段差の昇降)を維持し転倒を予防できる。	3
		生活全般の解決すべき課題 (ニーズ) 【案】 1. 歯を治療して何でも食べられるようになる。 2. 食事指導により食事内容を更し、併せて内服薬の継続と、適切な運動を行うことで、体重が減少し、高血圧や糖尿病合併症予防ができる可能性がある。 3. 両膝の痛みに対して、負担を減らし、注料等を行うことで、痛みが軽減せず、現状(自立)での買物や段差の昇降)を維持し転倒を予防できる。	4

※5 「原因」および「改善/維持の可能性」を踏まえ、原因を解決するための課題を設定し、それが提供されることにより、見込まれる状態の改善(目標)を記載する。  
 ※6 本計画期間における改善/維持/悪化の状況について、介護支援センターの判断として記載している。

### (1) 課題整理総括表の策定の背景と趣旨

課題整理総括表は、介護支援専門員が把握した要支援者等の基本的な情報を多職種で共有するとともに、専門職である介護支援専門員としてどのような考えで要介護者等の「生活全般の解決すべき課題（ニーズ）」を導き出したのかを表現している。

### (2) 課題整理総括表及び評価表の活用における留意点

課題整理総括表の活用にあたって重要なことは、利用者の生活全般の解決すべき課題（ニーズ）を導くにあたり、利用者等がどのような生活をしたい、あるいは、どのようになりたいと望んでいるか等、意向を引き出しつつ専門職として客観的に判断すること。

### (3) 課題整理総括表の活用場面

課題整理総括表は、介護支援専門員が専門職として、多職種と情報共有しつつ、アセスメントによって把握した情報から、利用者の日常生活を支援していく上でどのような考えで生活全般の解決すべき課題（ニーズ）を導き出したのかを記録するものであり、課題をとらえた経緯を表現するもの。

### (4) 課題整理総括表の記録項目及び記録要領と注意点

#### ①「利用者名」欄

利用者名を記入する。

#### ②「状況の事実」の現在欄

自立度	状況
見守り	見守りや声かけを受けるが、一連の動作のほぼ全てを支障なく実施している
一部介助	一連の動作の一部について介助を受けて行為を実施している
全介助	一連の動作の全てあるいはほぼ全てについて介助を受けて行為を実施している

具体例を次の項に示す。

項目	状況	記入例
屋内移動	多少のふらつきがあり転倒リスクはあるものの、階段昇降を含めて移動している	自立
屋外移動	ヘルパーが付き添うと病院まで自力で移動するが、付き添いがないと外出できない	見守り

口腔ケア	デイサービスで声かけされれば歯磨きをするが、 自宅では声かけがないと全くしない	見守り
服薬	飲むべき薬の判断と飲むための準備ができない 薬とコップに入れた水を手渡すと飲むことはできる	一部介助
調理	自身では全く調理していない (ヘルパーが準備したものを食べている)	全介助 (日常的にしてい ない)
入浴	週2回のデイサービスで立位保持と洗身の介助があれば 入浴しているが、自宅では全く入浴していない	全介助

一方、ADL/IADL 以外の項目について「支障あり」に○印を記入した場合は、必ず具体的な状況を備考欄に補記する。褥瘡・皮膚の問題や行動・心理症状（BPSD）等について、現在は支障が顕在化していないもののリスクが大きいと判断される場合は「支障あり」を選択すること。

### ③「自立した日常生活の阻害要因（心身の状態、環境等）」欄

収集した情報に基づき、利用者の自立を阻害している根本的な要因、特に「状況の事実」の「現在」欄で「自立」あるいは「支障なし」以外が選択されている項目の要因を分析した上で、より根本的で重要な要因を最大6項目程度に絞り込み、「自立した日常生活の阻害要因」欄に記載する。なお、本欄に振られているア～カについては便宜的な通し記号であり、要因の重要度等による優先順位を示したものではない。本欄には疾患名だけでなくその疾患に応じた療養や健康管理等も含めて整理し、必要に応じて記載することが望ましい。

### ④「状況の事実」の「要因」欄

「状況の事実」の「現在」欄で、「自立」あるいは「支障なし」以外を選択した項目についてその要因として考えられるものを、③「自立した日常生活の阻害要因（心身の状態、環境等）」欄から選択し、その記載した記号（ア～カ）を記入する。複数の要因が考えられる場合は該当する記号（ア～カ）を記載してよい。

### ⑤「状況の事実」の「改善／維持の可能性」欄

「状況の事実」の「現在」欄で、「自立」あるいは「支障なし」以外を選択した項目について現在の認定有効期間を見通して、必要な援助（介護保険サービスだけでなく、

インフォーマルな支援を含む) を利用した場合に「現在」の状況が改善／維持する可能性の有無を検討し、「改善」「維持」「悪化」のいずれかに○印を記入する。この欄は主治医意見書等の多職種からの意見を踏まえた上で、あくまでも専門職たる介護支援専門員としての判断に基づいて考えを記入する。

#### ⑥「状況の事実」の「備考欄」等

「状況の事実」欄の「現在」あるいは「改善／維持の可能性」に関して補足すべき情報を記入する。例えば、「現在」に「支障あり」とした場合にはその具体的な支障内容を、また「改善／維持の可能性」欄において、「改善」としたときには、なぜそのような可能性があるかと判断したのかの根拠を補記することも有効である。

#### ⑦「見通し」欄

「利用者の自立した日常生活を妨げている要因」の解決に向けて、多職種からのアドバイスを受けつつ、当該ケアプランの短期目標の期間を見据えて、「どのような援助を実施することにより」（要因の解決のために必要と考えられる援助内容）、「状況がどのように変化することが見込まれるか」（援助を利用した場合に到達が見込まれる状態）を記入する。

#### ⑧「利用者及び家族の生活に対する意向」欄

利用者宅の訪問や利用者・家族との面談等を通じて把握した利用者及び家族が望む生活の意向のうち、課題を抽出する上で重要と思われる情報を整理して、簡記する。

#### ⑨「生活全般の解決すべき課題（ニーズ）【案】」欄

「見通し」欄の記入内容を踏まえて記入する。情報の収集・分析が終わった後に課題整理総括表を作成することから、利用者・家族等からの聞き取りにより、「利用者が望む生活」を捉えられていることが前提。

#### ⑩ 優先順位欄（※6の欄）

課題の優先順位を踏まえて、数字を記入する。利用者としり合わせた結果、当該期間のケアプランに反映しないこととした（反映できなかった）課題については、「—」印を記入する。

食事内容・口腔・水分摂取チェックシート

	月	火	水	木	金	土	日
朝							
昼							
夜							
間食							

●お口の状況

- ①入れ歯を入れている : はい ・ いいえ (残っている歯の本数 本)
- ②入れ歯が合っていない: はい ・ いいえ
- ③入れ歯があっても使っていない: はい ・ いいえ
- ④定期的に歯科受診をしていますか: はい ・ いいえ
- ⑤最後に歯科受診をしたのはいつですか: 年 月 頃

その他に、お口のことで気になることはありますか

●一日の水分摂取量 (食事による摂取を除く) \_\_\_\_\_ ml

## 7. 自立支援型個別ケア会議の流れ

### ① 会議の目的を説明

参加者の「OJT： On the Job Training の場」であることを共有する。

### ② 個人情報保護の取扱いについて説明

地域ケア個別会議における個人情報守秘義務が介護保険法に基づいていることを説明する。

### ③ 会議資料について説明

配布資料の確認、及び会議終了後に資料を回収する旨を説明する。

### ④ 介護支援専門員から事例概要の説明

参加者は専門職に限らず多領域から招集されているため、事例提供者はできる限り分かりやすい説明を心掛け、参加者が共通認識を持てるよう留意する。

### ⑤ 外部助言者等の参加者からの質問等

外部助言者であるリハビリ専門職等から介護支援専門員に質問を行い、状況等の確認を行う。自らの専門分野については、分かりやすい言葉で助言を行う。

(専門職の助言例)

歯科医師・歯科衛生士：義歯・口腔内衛生状況、摂食・嚥下機能等に関する助言

薬剤師：処方薬に関する情報提供及び服薬管理に関する助言

保健師・看護師：全身状態を把握し、心身・生活面に関する助言

管理栄養士：食事の形態や栄養状態の見極め、支援方法に関する助言

理学療法士：筋力・持久力等の心身機能の見極めや体操方法に関する助言

社会福祉士：地域や福祉に関する専門性や知識に基づく助言

### ⑥ 課題の明確化と対応方法の検討

事例が直面している課題とその背景を明らかにし、課題の緊急性や実現可能性等の要因から優先順位を判断し、優先順位の高い課題から目標に至るための支援や対応方法を検討する。

⑦ 目標及び支援方法を決定

長期・短期目標及び対応方法を決定。

⑧ 振返り

事例提供者と連携を図りながら、一定期間後にモニタリングを行う。

⑨ 決定事項を確認し、参加者が共有

介護支援専門員やサービス事業者が取り組むべき点について確認。今後の支援方針について共通認識を持つ。

## Ⅱ. 館林市自立支援型個別ケア会議の好事例

### 心身機能・活動・参加・環境因子・個人因子が好転したケース

#### ① ケース概要

- ・ 要支援2 女性 90代
- ・ 下肢筋力低下、両膝痛、腰痛、食事内容の偏りや口腔内に残渣がみられる
- ・ 社交的な性格だが、転居を機に外出の機会が減少

#### 専門職からの助言

- ・ 管 理 栄 養 士：食事内容に偏りがみられるため、タンパク質を増やすことも大切
- ・ 歯 科 衛 生 士：新型コロナウイルス感染症やインフルエンザの予防のためにも口腔ケア（歯みがき・うがい）が大切
- ・ 主任介護支援専門員：安全性の観点から、通所型サービスでの入浴をすすめることも良い
- ・ 保 健 師：生活のなかで役割を作ることも良い

#### 支援の経過

- ・ 朝食にヨーグルトや飲むヨーグルトを取り入れることができた
- ・ 入れ歯を取り外し、定期的なうがい等を実施している
- ・ 通所型サービスで入浴することができた
- ・ 孫から貰ったパズルを熱心に取り組んでいる

改善



## ②ケース概要

- ・要支援1 女性 90代
- ・病歴に脳梗塞、膝関節炎、脂質異常症、下肢筋力低下、歩行の不安定性がみられる
- ・近所のスーパーへ週1回買い物に行っている

## 専門職からの助言

- ・管理栄養士：病歴に脳梗塞があり、再発予防としての血圧管理も大切なため、漬け物やみそ汁の摂取回数を減らし減塩に取り組むことも良い
- ・主任介護支援専門員：ご本人が高齢なため、家族や民生委員の協力を得て生活の見守りを行うことも大切
- ・保健師：家でできる簡単な運動を取り組むと良い
- ・理学療法士：スーパーに行くことができる体力や歩行能力を知るために、6分間歩行などで連続して歩ける距離を把握することも大切

## 支援の経過

- ・脂質異常症や膝関節炎があるため、食べ過ぎに注意をしている
- ・民生委員から見守りや声掛けの支援を受けている
- ・通所リハビリの理学療法士にホームエクササイズを作成してもらい、継続できている
- ・シルバーカーを使用しながらスーパーまで行くことができている

改善



### ③ケース概要

- ・ 要支援2 女性 80代
- ・ 病歴に両側の変形性膝関節症、外傷性硬膜下血腫、両肩痛
- ・ 歩行に不安定性があることや、洗濯物をうまく干せないことが課題

### 専門職からの助言

- ・ 管理栄養士：朝食や昼食は、パンやうどんのみが多い  
そのため、例えばハムやチーズ、卵を足すことや缶詰や乳製品、野菜を加えることも大切
- ・ 主任介護支援専門員：針仕事に興味を持っている様子  
生きがいや役割をつくることも大切
- ・ 薬剤師：処方薬から排尿に関することが課題となっている様子
- ・ 理学療法士：ベッドを折り畳み式から手すり付きの介護用ベッドに変更することで起き上がりが楽になり、トイレに間に合う可能性がある  
洗濯物を干すときの肩の痛みは、耐荷重を考慮した上でS字フックを用いて物干し竿の高さを下げる工夫もある  
通所リハビリの理学療法士にトイレ動作の評価を依頼し、検討することも良い
- ・ 歯科衛生士：総入れ歯なので、体型の変化とともにサイズの調整も大切

### 支援の経過

- ・ 食事内容に偏りがみられていたが、毎食たまねぎやキャベツの酢の物、ブロッコリーを摂取し、食事内容に改善がみられている
- ・ 食事や家事の全般を行っている
- ・ 通所リハビリの理学療法士が自宅を訪問・評価し、ベッドサイドにタッチアップ、物干し竿にはS字フックを設置。その結果、ベッドからの起き上がりや洗濯干しがスムーズにできるようになっている
- ・ 滑りやすかった畳をフローリングに変更し、転倒予防に繋げている
- ・ 入れ歯の調整のため、歯科受診を実施

改善

#### ④ケース概要

- ・ 要支援2 女性 80代
- ・ 病歴に糖尿病、両側の変形性膝関節症があり、片側の人工関節置換術を行っている
- ・ 室内で過ごすことが多くなっているため、フレイルが懸念される

#### 専門職からの助言

- ・ 管理栄養士：膝への負担を考慮すると、糖質を減らしタンパク質を増やすことが大切
- ・ 歯科衛生士：糖尿病治療薬が口腔内乾燥に影響することや、社会参加が減ることで、口腔機能の低下を引き起こすこともある。そのため、水分を摂りながら他者と交流することや定期的な歯科受診も大切
- ・ 理学療法士：運動の強度として、ご本人が「ややきつい」と感じる程度のものを実施することも大切

#### 支援の経過

- ・ 食事は自身で調理し、魚の煮物などを摂取している  
家族の協力により、ヨーグルトや納豆の摂取も行っている
- ・ 民生委員からの見守りや声掛けの支援を受けている
- ・ 通所型サービスで運動量を増やし、取り組んでいる



改善

館林市自立支援型個別ケア会議 事例報告書

---

発行日 令和5年1月

発行 館林市役所高齢者支援課

地域包括ケア推進係

☎0276-47-5131

---